



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日(予定) 3月1日、6月1日、9月1日、12月1日

第1回 ART OF THE DOLLS

10月29日-31日 マネージ中央展示会場(ロシア・モスクワ)
～ドール・ショーのスタイルに一石を投じる画期的構成～



- 1 マネージ中央展示会場
- 2 会場内
- 3 入場を待つ行列
- 4 日本セクション
- 5 子供のポートレートや人形に関する絵画を展示するギャラリー。愛らしく美しい作品が多い。
- 6 写真作品の展示も多かった。これは、サシャ・ペトロヴァがモデルとなり自作を抱えている写真。この人形は、5月の「世界創作人形展」に出品されたものだ。
- 7 見過ごしていきそうな足下にも、見過ごせない面白い作品が「ゴロゴロ」という感じがした。

さる10月29日から31日まで3日間にわたってモスクワで行われた第1回「Art of the Dolls」の様子をお知らせいたします。

会場のマネージ中央展示会場はクレムリンの赤の広場に面していて、市民にとってアクセスが大変良い場所です。会期中は25000人もの入場者が訪れ、終日会場の外まで入場待ちの行列ができていました。若い世代からお年寄り、家族連れやカップルなど、様々な方が来場。主催者によれば、そのほとんどは美術的な人形を初めて見るような方ばかりだったそうです。

主催は、文化財団「DOLL OF THE WORLD」。この財団は、モスクワで人形歴史博物館を創立したラナ・レッタを会長に、『ドール・マスター』誌の編集長でサンクト・ペテルブルグの「DOLL TIME」の主催者でもあるオルガ・ラクヒナ、ワクタノフ・ギャラリーのオーナーのイリナ・ミンツィアといったロシア人形界の牽引者たちによって設立されました。

ロシアで人形の展示発表の場としては、これも毎年10月に開催される「ドール・サロン」定着していますが、「DOLL OF THE WORLD」は、その「ドール・サロン」から分離独立したかたちとなりました。

格調の高い会場の性格もあってか、全体の構成は人形一色の「ドール・サロン」とは趣を異にしました。美術や玩具、材料に至るまで人形に関するすべての分野を扱って、中央は美術展としても見られる内容です。人形作家はもちろんのこと、人形を題材とした写真や絵画を扱うギャラリー、ロシアで有数のパペットアニメーションのスタジオや、メカニカルなオブジェを制作する作家グループが見応えのある展示を行っておりました。海外からはドイツ、イスラエル、インドネシア、アメリカ、イタリア、そして日本から出展がありました。



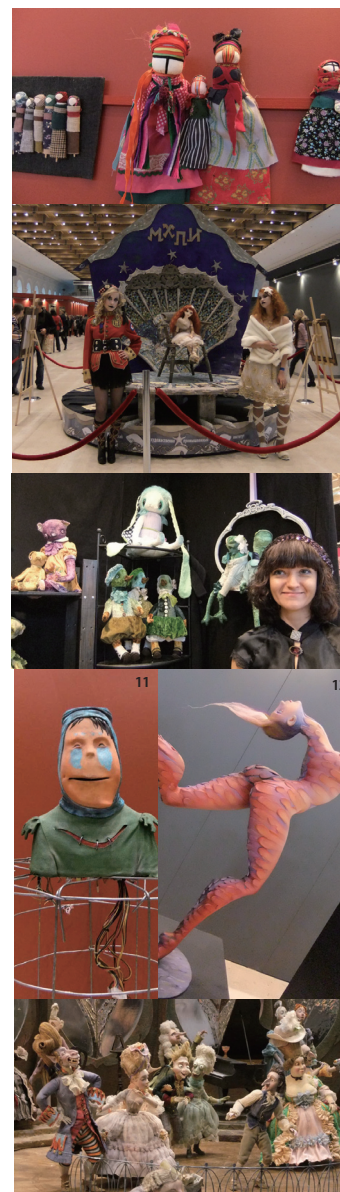
日本セクションが制作したチラシ。左から山吉由利子、尾花智子*、長谷川裕子、稲田敦*、山口景子、柴倉一二三、長岡哲生*、レブンクル*、河野滋子、矢部藤子。*はチーム・コヤアラ選出。また、チーム・コヤアラスタッフとして、西村 FELIZ 作品も展示した。

新規企画の第1回目ということで、力業で押し切っている印象もありましたが、オルガ・ロエル(スイス)をはじめとするベテラン作家たちが「今まで参加した人形展で一番美しく、クオリティが高い」と異口同音に高く評価していました。私も同感です。従来のドール・ショーのスタイルに確実に一石を投じたといえるでしょう。試行錯誤であれとにかく、この広い会場を実際に素晴らしい展示で埋めつくせるところに、急成長したロシア人形界の底の深さと美意識の確かさを思い知らされました。絵画、写真、パペットアニメーションのスタジオの展示内容を見ると、ロシアから多くの優れた人形作家が輩出するのは当然だと思いました。そもそも日常的に接する美的感覚の水準や、目標設定のレベルの違いがありそうです。また、一般の人がこんなにも「人形」に反応する精神的な風土も、関わりがあるでしょう。ただ、人気が高まる球体関節人形の作家物は、独特な展開をしているので、そのことはまたの機会に。

私たちが出展した日本のセクションも、「この展示が一番美しい」というお褒めの言葉を何度か頂きました。来場者は、性別年齢問わず、誰もが人形に対する偏見なく、作品をひとつひとつ、じっくりと鑑賞します。こういう鑑賞の仕方は羨ましくさえ思いました。

30日には一般公開のプログラムが行われましたが、私も日本の現代創作人形をテーマに30分ほどプレゼンテーションを行いました。私の出番が近づいたとき、場内は満員のとなり、関心の高さを感じました。

次回の開催が気になるのですが、現在の時点では来年も10月末か11月はじめの開催を予定しているそうです。(羽関チエコ)



- 8 顔に十字の素朴な民族人形。おしらせを思い出す・・・
- 9 コスプレでABJDのデモンストレーションかと思ったら、彼女たちが人形や人間の服のデザイン教室を開いているのだとか。
- 10 世界創作人形展でも人気のあったアレナ・ジレンキナ。ここでも彼女のクリエイティブなめいぐるみは大好評でした。
- 11 ロシア人形界でダントツな個性派、ディーヴァは、ワクタノフギャラリーとのコラボで出品。
- 12 オルガ・ロエルは今回大成功を収めました。
- 13 ロシアで最高と言われるパペット・アニメーション・スタジオの展示。人形もジオラマも良く作り込まれ、ユーモラスで、かつ美しい。

文中写真：西村 FELIZ、羽関チエコ

Art of the Dolls に参加して

レブンクル

深夜ドモジェドヴォ新空港に到着、白樺並木の続く広大な道をタクシーで町へ向かいます。

今回は羽関チエコさん、西村 feliz さんと私の 3 人での渡露。私は 2007 年に続き 2 回目ですが、またモスクワを訪れるとは夢にも思っていせんでした。

ロシアというと近くて遠い、日本人にとっては馴染みが薄い国だと思えます。でも私は 19 歳から中国で 10 年を過ごしていたこともあり、その共産国特有の大陸的な空気感とでも言うのでしょうか、最初から何処か懐かしさを感じ大変好きな国であります。

もと宮廷士官の馬術練習の場として使われた由緒ある会場『マネージ中央展示場』は、初日から行列ができる程の人で熱気に溢れ、人形ファンのみならず、子供を含む大変多くの一般来場者の数には驚きました。

場内でスタンドでヨーグルトドリンクや砂糖菓子(ラズマク)の絵が描かれたクリスマスのお菓子が売られ、まさにハイクラスなカーニバルの様な雰囲気(ノスタルジック)のなか、小さな子供たちが東洋から来た人形を見て喜ぶ様子の可愛らしさを見ているだけでも楽しく幸せな時間でした。その様子も沢山写真に納めて来ました。

値段をよく聞かれましたが、数字を聞くなり一様に驚かれ、なかなか購入には繋がらなかった。でも多くの方が作品のふとしたところが気に入り、作家の製作の意向を熱心に質問してくるなど、好意的な関心が示される場面に立ち会えたことは、何にも代え難い収穫でした。

ロシアでは珍しいことではないという撮影会場の様な鑑賞方法に圧倒されながら、私も東洋の作家ということで人形と一緒に写真を撮られ、帰国後ロシアの方のブログにその写真が掲載されていたと日本の友人から聞いたのも面白い体験でした。

また以前日本のショーでお会いした作家さんや、HP で写真を拝見していた憧れの作家さん達と交流することが出来、感動もひとしおです。

参加作家は地元ロシアの方がもっとも多く、背が高く手足が長い彼らの体型は作品にも反映されていました。独特の美しい色調も目を楽しませてくれます。完成度の高い固定人形の大作が多く見られるなか、日本の影響を強く受けたと思われる球体関節人形やキャラクター風のぬいぐるみも見られ、世の中の景気とは別にロシアや中国といった国は、自国には無い新しい価値観を求めるエネルギーが現在の日本より大きいと肌で強く感じました。

最後になりましたが、今回のモスクワのドールショー滞在を有意義に楽しく過ごさせて下さった羽関チエコさん、西村 Feliz さん、そしてチーム・コヤアラの皆さんに心から御礼申し上げます。

本当にありがとうございました！



ロシアの球体関節人形事情-2

アンナ・モチャロヴァ

アジアの球体関節人形 (ABJD=Asian Ball Jointed Dolls) が手に入りやすくなり、人気が出てからは、ファンはインターネットのブログで ABJD の話題だけを綴る日記を公開するようになりました。人形の写真、物語や感想、抱いた感情など記録していきます。そして、読者のコメントも掲載されます。

こうして、人間のようでもあり、動かしたり手を加えたりすることができる ABJD は愛すべき対象として命を得、豊かな感情も生み出しました。つまり、愛を受け入れるオブジェなのです。

時に球体関節人形の構造の神秘性は、その高価な価格も理由となっており、購入する代わりに自分でも作ってみたいという気持ちにさせるものです。たとえばロシアの BJD クラブは、年に一度のモスクワ・ドール・サロンで「作家の人形」という部門で参加、アンチ、ミキタカ、リディア、マエグリンといった BJD の作り手たちがここで作品を展示したりしています。素材や技法は、様々な組み合わせや模倣によるものです。

このような人形は主に、個人的な目的のために作られますが、でもそれより先を求める作家もいます。今のところ最も成功した作家は、シベリア生まれのマリナ・ビチコヴァ (enchanteddoll.com) です。彼女は数年前にカナダに移住しました。最近では、ドイツ在住のアンナ・リンバーガー (anchi.ru) が活躍しています。サンクト・ペテルブルグには、本年度の「世界創作人形展」に出品したリディア・スヌル (bjtales.com) がいます。人気のある作家の一点物は高額にもなりますが、その価格に値するか疑問に思うものもあります。(終)

チーム・コヤアラのモスクワ・スタッフとして、Art of the Dolls の出展者にインタビューするアンナ(一番右)



コヤアラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000 円 (更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円となります。) 年 4 回 (3・6・9・12 月) のチーム・コヤアラのニュースレターと DM 便が届きます。

お申し込み方法

年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。
【郵便振替】 通信欄に「コヤアラ入会」とお書きください。
送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤアラ
*ご入金を確認できたらチーム・コヤアラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤアラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM 同封希望の方 (発行月から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方)

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封 DM は発行月の前月 20 日にチーム・コヤアラ必着でお送りください。
同封料金 コヤアラ・クラブ会員：2000 円 一般 (非会員)：3000 円

紙上展覧募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
5 号ズ切 2011 年 2 月 10 日 (必着)
以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。
作品写真 2~3 点 (全体・アップ・裸形) サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
*何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。
*応募作品はウェブ上で公開されることもあります。(講評は紙面のみ掲載)
*応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤアラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤアラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤアラの趣旨に沿って DM クラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤアラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤアラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547 (担当 ハゼキ)
FAX 042-395-7975
URL <http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/>
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)

©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。

●第 2 回コヤアラ・フェス

今年も開催！

テーマ：「toy doll」
～「遊び」の心で作られる小さな人形や小物～
主催：チーム・コヤアラ
会期：12 月 23 日 (木) ～ 26 日 (日)
12:00-19:30 (最終日 18:00 まで)
会場：自由帳ギャラリー (東京・高円寺)
東京都高円寺北 2-18-11
TEL 03-5373-0306
会期中、コヤアラ・スタッフが詰めています。

今、注目されている高円寺は、古い物と新しい物がハランスよく交わっていてどんな物でも受け入れられるオープンな街。「自由帳ギャラリー」のある通りは可愛いカフェやボックス貸しのお店がある通りなので、小さくて可愛い雑貨やアートが好きで、目の超えた若い人が多く集まります！

